



# News Release

07-D-0762  
2007年10月12日

## クレジット・モニター（ネガティブ）のお知らせ

NISグループ株式会社（証券コード：8571）

長期優先債務格付：「BB+」→「#BB/ネガティブ」（ダブルBフット）

発行登録債予備格付：「BB+」→「#BB/ネガティブ」（ダブルBフット）

国内CP格付：「J-3」→「#J-3/ネガティブ」

ニッシン債権回収株式会社（証券コード：8426）

長期優先債務格付：「BB+」→「#BB/ネガティブ」（ダブルBフット）

株式会社日本格付研究所（JCR）は、以下のとおり、長期優先債務\*等の格付けを見直し、変更するとともにクレジット・モニター（ネガティブ）の対象としましたのでお知らせします。

\*長期優先債務格付けとは、債務者（発行体）の債務全体を包括的に捉え、その債務履行能力を評価したものです。このうち、期限1年以内の債務に対する債務履行能力を評価したものを短期優先債務格付けと位置づけています。個別債務の評価（債券の格付け、ローンの格付け等）では、債務の契約内容、債務間の優先劣後関係、回収可能性の程度も考慮するため、個別債務の格付けが長期優先債務格付けと異なること（上回ること、または下回ること）もあります。

発行体：NISグループ株式会社

### 【変更、クレジット・モニター（ネガティブ）】

（対象）	（格付）			
・長期優先債務	#BB/ネガティブ			
（対象）	（発行予定額）	（発行予定期間）	（予備格付）	
・発行登録債	1,000億円	2005年12月2日から2年間	#BB/ネガティブ	
（対象）	（発行限度額）	（バックアップライン）	（格付）	
・コマーシャルペーパー	150億円	なし	#J-3/ネガティブ	

発行体：ニッシン債権回収株式会社

### 【変更、クレジット・モニター（ネガティブ）】

（対象）	（格付）
・長期優先債務	#BB/ネガティブ

### 【格付事由】

- JCRは、NISグループについて、今後の手元流動性の状況や金融機関との関係に注意すべき必要性が増しており、財務の安定性が後退していくおそれもあることから、長期格付けを1ノッチ引き下げるとともに、クレジット・モニター（見直しの方向は「ネガティブ」）の対象とすることとした。また、ニッシン債権回収についても親会社との一体性が強いと判断されることから、長期優先債務格付けを1ノッチ引き下げ、同様にクレジット・モニターの対象とした。
- NISグループの格付けについては、2007/3期まで順調に推移してきた連結業績や、事業多角化に向けた取組みで先行、一定の成果を得られている点をサポート要素として評価してきた。他方で、資産収益率の低下や投資勘定が増加していることを要因とした財務バランスと事業リスクの変化を制約要因と考え、貸金業制度等の改革による損益へのネガティブな影響が想定される点を踏まえ、格付けの見直しをネガティブとしている。かかる中、貸倒、利息返還請求による業績への下方圧力の高まり、投資有価証券における減損発生、消費者金融セクターに対する金融機関の貸出姿勢の硬化といった状況が顕現化しており、NISグループとニッシン債権回収、両社の格付けは9月27日に変更されている。
- 資金調達面では、短期調達比率並びにノンバンクからの調達比率が元々高く、資産の運用期間と負債の調達期間のバランス、手元流動性の維持（2007/6末392億円）に目を配る必要性は、最近の資金調達環

格付けは、信用すべき情報に基づいたJCRの意見の表明であり、その正確性、完全性、特定の目的への適合性等は一切保証されておりません。また、格付けは、信用リスクの判断や個別の債券、コマーシャルペーパー等の売買・保有を推奨するものではありません。格付けは原則として発行者から対価を受領して行っております。

※無断コピー・転送は固くお断りします。

株式会社日本格付研究所

〒104-0061 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信ビル

<情報提供電子メディア（検索コード）>

BLOOMBERG（和文：JCRA / 英文：JCR） REUTERS（EJCRA）

QUICK（和文：QR / 英文：QQ） JJI PRESS 共同通信JLS

<お問い合わせ先>

TEL：03-3544-7013 FAX：03-3544-7026 担当：情報・研修部

http://www.jcr.co.jp



# News Release

境を考慮すると、大きく増している。当社が近年増加させている資産（不動産担保ローン、サービスによる買取債権、販売用不動産等）の回転期間は1年から2年程度のもが多く、消費者ローン債権の回転期間(3～5年)よりも短い点、07年度第1四半期の営業活動キャッシュフロー、財務キャッシュフローはプラスであったように保守的な財務運営を行う方針である点は、流動性にかかる懸念を緩和する要素である。一方で、金融機関の消費者金融セクターに対する貸出姿勢はより慎重になっており、こうした状況が継続した場合、当社の財務の安定性が後退していくことが懸念され、財務安定化のための対応を含めて引き続き注意を払っていく必要がある。

以 上

(チーフアナリスト 本多 史裕・アナリスト 和田 恒)

## クレジット・モニター

当社が発表した格付けにつき、定期的な見直しを行う場合に加えて、戦争、大きな事故、合併、訴訟、行政措置、大幅な業況の変化など格付変更の可能性があると判断した場合には、クレジット・モニターの対象とし随時格付けの見直し作業を行うとともに、その旨を「クレジット・モニターの対象とした」と発表しています。クレジット・モニターの対象となった格付けには、それが解除となるまで格付記号の前に「#」が付けられます。

クレジット・モニターには、格上げの可能性が高いことを示す「ポジティブ」、格下げの可能性が高いことを示す「ネガティブ」、格上げ、格下げ、格付け据え置きいずれの可能性もあることを示す「方向性不確定」があります。なお、「ポジティブ」と「ネガティブ」は格上げや格下げを予告するものではありません。